

香



林

檀信徒各位

十夜法要のご案内

聖 名

今年の残暑は短く、9月から少し涼しい日が多かったように思います。先日、屋外を歩いていると何年かぶりに秋らしい空気を感じまして、しばしマスクを外して深呼吸してみました。空気の鮮烈さ、香りが全然違うことに驚きました。いつの間にか空気もしっかりと秋になっていたのです。

外出時のマスク着用が当たり前になってしまいましたが、買い物に急ぐ前に一度立ち止まり、周囲に人がいなければマスクを外して思い切り深呼吸してみませんか。

十夜法要を下記のように勤めます。感染防止のため、席数を制限しております。満席の際は恐縮ですが入堂をご遠慮下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

合 掌

記

※期日 11 月 23 日 (月) 勤労感謝の日

11:00~12:00 ご回向 (普通回向)

14:40 頃より 法 話

布教師 佐賀教区 光明寺住職 早田 空善 師

※ご回向料 普通回向 1 霊 1,000 円 以上 ご志納下さい。

※お供え料 随意ご志納下さい。

本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※本年の^{ふじゅもんえこう}諷誦文回向 (特別回向) は対象となる施主様にのみご案内をお送りします。ご了承ください。

マスクこぼれ話 前編



皆さん、マスクしてますか？

新型コロナウイルスの感染拡大が始まってそろそろ一年になろうかというところ。煩わしいながらもマスクをする生活にもだいぶ慣れてこられたのではないかと思います。

ある人の意見によると、日本人にとつてのマスクの認識は、**感染防止↓お守り↓エチケット** ↓ファッションと、この一年で変遷してきているのではないかと思います。

うーん：なんとなく納得できるような気がしますね…？

あまりファッションを重視し過ぎてしまうとマスクを着ける本来の意味が怪しくなっていますので、その点は気を付け

たいところですが、それでも『マスクの着用自体は維持したままで、オシャレも楽しもう』と考える日本人の衛生意識の高さやマスクに対するなじみの深さは感染防止に一役買っているのではないかと思います。

一方、西洋圏では「**マスクは病人がするものだ**」との認識があり、まだまだマスクをしたがらない人が多いとの報道もありました。一説によると、西洋文化圏では口元の動きや形を見て相手の感情や意図を読み取るため、マスクをしたがらない人が多いのだそうです。しかし感染拡大に伴い、西洋圏でのマスクに対する認識もだいぶ見直されつつあるようです。

少し調べてみると、過去に欧州でも感染予防を目的としてマスクを着用していた事例がありました。

◎ペストマスク

欧州でペストが蔓延していた時代、貧富の差無く治療が

施せるよう、ペスト患者を専門に診察する医師を役所が雇用していました。彼らは当時主流だった治療を施し、遺言書作成に立ち会い、死を前にした身の振り方について患者に助言をすることもあったといわれています。当時のペストの致死率は60〜90%と非常に高いもので、ペスト医師自身も非常に危険に晒される立場でありました。

ペスト医師を記録した資料の中には、ひと際目を引く異様な格好のイラストが残されています。ペストマスクを着用したイラストです。「あ、なんかテレビとかで見たことある…？」と思われるかもしれないですね。

現在では欧州のカーニバルの仮装に使われることがあるようです。

このマスクは17世紀、フランスの医師シャルル・ド・ロルムが考案したとされています。頭全体を覆うマスクは、目の部分にガラスがはめ込まれ、鳥のくちばしのような円錐状の筒に香辛料や麦わら等が詰められていました。香辛料から発される香気が、ペストの悪い空気から身を守ってくれるという理屈だったようです。帽子を被っているのは、当時の公務員は必ず帽子を被る習慣だったから。そして、極力肌を露出しないよう、蟬を引いた布や革製のガウンで



全身を覆い、革の手袋をし、直接患者との接触を避けるための木の杖を持ち歩いていました。

やがてその格好は、ペスト医師であることを表す象徴となりました。しかし、その異様な格好や、彼らの行く所は必然的に死が付きまとうことから、不吉な死神のイメージと結び付けられることも多かったそうです。

ペスト医師のこの格好は、くちばしの部分以外は現在でも通用する理にかなった形であり、防護服の原型とも言えるかもしれません。それにこのくちばしこそ、病気の感染を予防する目的で作られた世界初のマスクです。残念ながら、くちばしの効果は恐らくほとんどなかったであろうと言われていますが、医療用マスクの元祖とも言えるかもしれません。

後編につづく

十夜法要新型コロナウイルス対策

◎ご参詣の皆さまへのお願い

- ・ ご参詣の際はマスクを着用いただけるようご協力をお願い致します。
- ・ 消毒液を配置しております。手指の消毒をお願い致します。

◎法要当日は講堂の扉、窓を開放します。墓参の帰り等、ご自由に阿弥陀様を拜んでいただければと思います。

◎受付の右側（ドアのポスト）に**無人受付**を開設します。「人ごみはできるだけ避けたいけれど供養はしたい」という方はご利用下さい。

無人受付開設期間：11月9日～26日

◎郵送及びFAXでの受付は従来通り行なっておりますのでそちらの方もご利用ください。

**今回もお勤め・法話の様子を You Tube で配信致します。
無量寺ホームページからご覧になってください。**

久留米 無量寺



で検索または



玉田 行俊の

道場こぼれ話3

第八回



◎お礼法要

今回も例によって、最後の勤行は自分たちで式次第や配役を決める事となりました。お礼法要とは、三週間無事に修行を終えることができたことを、阿弥陀様に感謝し、お礼する法要です。今回は「式衆（しきしゅう）」という役割が増えています。

式衆.. 大殿の真ん中の導師席には導師が着座しますが、その両サイドに向かい合う形で十人位ズラッと並んでいる僧侶が式衆です。式衆は執持物（しゅうじぶつ＝持物）と威儀（いぎ＝動き）が後述する大衆とは異なり、法式（ほつしき＝作法全般）に秀でた者のつく事が多いです。動きの正確性や美しさから、法要

に彩りを添える役割もあります。

大衆（だいしゅう）.. 大きな法要の際、導師の後ろに沢山の僧侶のことで、要は「その他大勢」ですが、その声の力で法要に力を与える役割があります。

増上寺のお礼法要は、道場最終日の前夜に行なわれるとのこと。式衆は道場生の立候補と推薦によって決まりました。役の当たった者は皆、緊張感のある面持ちとなっています。その他の大衆は、私を含めて皆だいたい慣れていて、ためか「やれやれ、ようやくお礼法要か」という態度で少し油断しています。

当日の夜、大衆はいつものように念仏行道で大殿に入りました。その後、大衆全員が着座した後に式衆と導師が入堂する手はずになっていたのですが..

突然、大殿のどこからか、雅楽が聞こえてきました。皆、予想外の出来事で念仏の声が止まります。勤行中なので、

大衆は皆、前を向いたまま目の動きが落ち着かなくなっています。じつは、私達は何も知らされていなかったのです。増上寺道場の計らいで式衆・導師の入堂時に雅楽の生演奏が行われたのです。

どうりで大殿の脇の方に知らないおじさん達が居たわけだ。

夜ですから大殿の中は暗く、阿弥陀様と導師席付近だけが照明で浮かび上がり、雰囲気は最高潮。入堂してくる式衆・導師役の道場生も神秘的な面持ちで、堂々と、ゆっくりと丁寧に入堂してきました。

後から訊いてみると、式衆・導師役も事前に何も聞かされていなかったのが非常に動揺したそうです。僧侶の生活に想定外の事態はつきもの。動揺するような状況でも、周囲の人を不安にさせないよう、できるだけ堂々と、厳かに儀式を勤めることが求められます。ここぞという時にそんな訓練をブチ込んでくるとは、

増上寺道場もイジワルというか、ニクい演出というか..

しかし三年間の訓練の成果か、お礼法要は最後まで全員ミスなく成し遂げることができました。あの一体感は凄かった。

翌日の修了式から解散まではあっさりしたもので、皆、特に別れを惜しむでもなくサッと解散。みんな早く帰りました。うーん、あの一体感なんだったのだろうか。帰りがけ、ピンクのTシャツとジーパン姿で歩いている僧侶？が廊下にいたので通り過ぎざまに挨拶し顔を見ると、

指導員でした。

えっ.. 切り替えの早いこと..。意図しなくても勝手にオチがついたところで、こぼれ話3を終えることにします。

次回より最後の道場こぼれ話を始めます。もう少しだけお付き合い頂ければ幸いです。